

学術フォーラムの概要について（事後報告）

- 1 名称：学術フォーラム「デジタルデータ・社会調査データの公共的な利活用に向けて」
- 2 日本学術会議以外の共同主催団体等：なし
- 3 開催日時：令和5年9月24日(日)13:00～16:00
- 4 開催場所：オンライン開催
- 5 開催趣旨：

現代において人文・社会科学が扱うデータに大きな変化が起こっています。人文科学ではデジタルヒューマニティーズの興隆、社会科学においてはWeb調査の台頭、公的データの利用可能性の向上、いわゆるビッグデータを用いた計算社会科学の興隆などがあります。

個々の領域で起こっているこれらの変化は公共的な利活用を推進するチャンスでもあります。

本フォーラムでは、様々な分野で新しいタイプのデータを利活用している研究者を演者として招き、相互の交流を通じて公共的な利活用の可能性を探求します。
- 6 参加人数：

講演者等：8名

その他の参加者：159名（最大同時視聴者数）
- 7 特記事項：
 - (1) 本学術フォーラムは次の3つの提言、報告を基にしたものであり、6年間にわたる両分科会活動の集大成ともいえるものであった。
 - ・社会学委員会社会調査アーカイブ分科会提言『社会調査をめぐる環境変化と問題解決に向けて』（2017年9月19日発出）
 - ・社会学委員会 Web 調査の課題に関する検討分科会提言『Web 調査の有効な学術調査を目指して』（2020年7月10日発出）
 - ・社会学委員会 Web 調査の課題に関する検討分科会報告『社会的ビッグデータの利活用に向けて』（2023年9月22日発出）
 - (2) 事後アンケート結果を見ると、回答者の9割以上が学術フォーラムの内容について好意的な回答を寄せている。このことから本学術フォーラムは成功したと言えよう。